

大学初年次タイピングテストに対する自己評価の検討

伴 浩美*

A Consideration of Self-evaluation to a Typing Test for Freshmen

Hiromi Ban*

Recently, as ICT infiltrates our society widely, the typing skill that is basic to all the ICT skills has become important more and more. That is, it seems to be very important to be able to do touch typing in order to master PC such as using the word processor, e-mails, and spread sheets, etc. In this study, to make a data to think the directionality of teaching the typing skill, freshmen in a university being made to evaluate themselves of the typing test, the relationship between the evaluation and the input speed was examined. As a result, it has become clear that the freshmen tend to feel typing alphabets more difficult than Roman alphabets. In addition, while they are typing what they feel to be difficult, their tension rise and they feel the passage of time to be fast, which leads to their difficulty to put out enough results.

Keywords: Educational technology, First-year experience at universities and colleges, Self-evaluation, Typing test

1. はじめに

近年、ICT が広く社会に浸透していく中、全ての ICT 技能の基本となるタイピング技能の重要性が益々高くなってきている[1]. すなわち、ワープロや電子メール、表計算等 PC を使いこなすためには、タイピング、特に、キーボードを見ずに打つタッチタイピングが出来るようになることが極めて重要であると思われる[2]. タイピング技能を早期に身に付けてもらうよう意識を高めるため、1 年次生に対し、「情報処理基礎」のような授業において、4 月の最初の授業時にタイピングテストを行っている大学も見られる.

本研究では、今後のタイピング指導の方向性を考える一資料とすることを目的とし、大学 1 年次生がタイピングテストに対し、どのように感じたか、自己評価を行ってもらい、その評価と入力速度との関連について検討を行った.

* 基盤教育機構

2. 調査方法

2009年4月、東京都内T大学こども心理学部において、1年次生を対象とした「情報処理基礎」の最初の授業時に、フリーソフトを使用してタイピングテストを行った。学生はPCの画面上に表示されるローマ字表記（ひらがな）の単語、また、アルファベット表記の単語を、それぞれ1分間で出来るだけ多く入力する。終了後、打鍵数、入力速度、ミスタッチ数が表示される。なお、問題の単語は、その都度異なったものが表示されるようになっている。

受講生を、ローマ字表記単語を先に入力するグループと、アルファベット表記単語を先に入力するグループの2つに分けた。被験者数は両グループともに100名である。

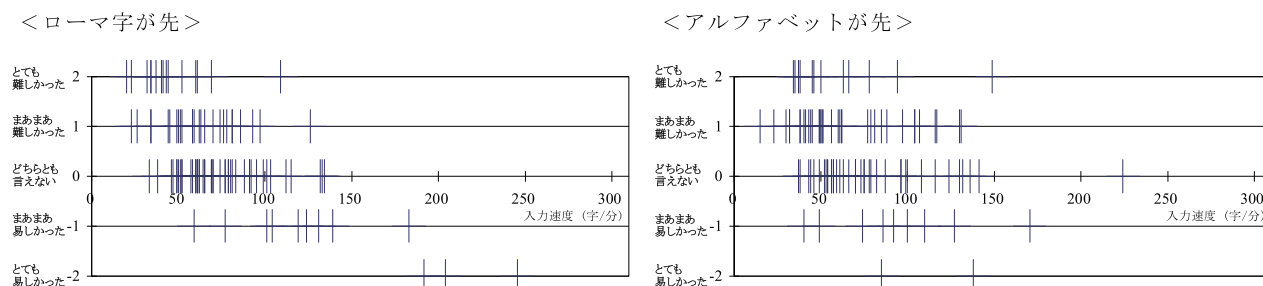
各自、タイピングテスト終了直後に、難易度や緊張感等について、記名の上、質問紙によるアンケートに回答してもらった。質問事項は、難易度に関するものが3項目、緊張感に関するものが3項目、時間感覚に関するものが3項目、順序に関するものが1項目となっている。

3. 調査結果と考察

3.1. 難易度

まず、ローマ字のタイピングを難しく感じたかどうか、5段階で表してもらった。その結果を図表1に示す。表には、入力速度の平均値を記した。ローマ字を先に入力したグループもアルファベットを先に入力したグループいずれも、入力速度の平均値と難易度に相関が見られる。しかし、分布図を見てみると、ローマ字入力が先のグループでは入力速度と難易度に全体的に相関が見られるが、アルファベット入力を先に行ったグループではバラツキが見られ、相関が弱いことが分かる。なお、アルファベットを先に行ったグループで、入力速度が85字/分の被験者が「とても易しかった」と答えているが、これは、アルファベットのタイピングの後であったために、ローマ字入力がより易しく感じられたのではないと思われる。しかし、全体的には、難しかったと答えた被験者の割合は、アルファベット入力が先のグループの方が48%と、ローマ字入力が先のグループの41%よりも7%多くなっている。

Q.1 (ローマ字)	とても 易しかった	まあまあ 易しかった	どちらとも 言えない	まあまあ 難しかった	とても 難しかった	合計
ローマ字が先	3% (213.8字/分)	9% (115.2字/分)	47% (74.4字/分)	26% (62.9字/分)	15% (46.6字/分)	100% (75.1字/分)
アルファベットが先	2% (111.5字/分)	9% (94.3字/分)	41% (79.9字/分)	36% (64.9字/分)	12% (61.2字/分)	100% (74.2字/分)

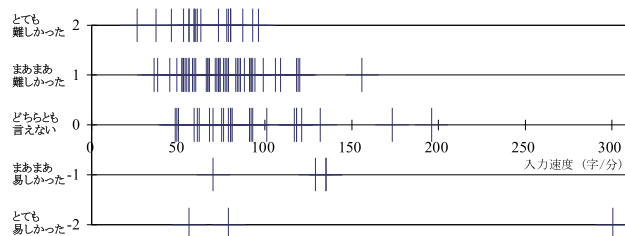


図表1 ローマ字タイピングの難易度

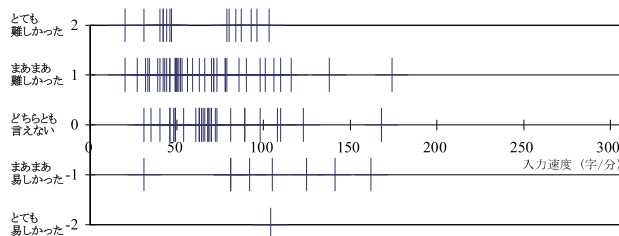
続けて、アルファベットのタイピングを難しく感じたかどうか回答してもらった結果を、図表 2 に示す。難しいと感じた被験者は 67%, 59%と、いずれのグループもローマ字入力よりも多くなっている。ローマ字が先のグループで、入力速度 56, 79 字/分の被験者が「とても易しかった」と答えているが、これは先のローマ字入力で入力方法に慣れたためであろうと思われる。アルファベットが先のグループで、入力速度 174 字/分の被験者でも「難しかった」と答えているのは上記の逆で、このタイピングテストの入力方法に慣れていないことが原因ではないかと考えられる。

Q. 2 (アルファベット)	とても 易しかった	まあまあ 易しかった	どちらとも 言えない	まあまあ 難しかった	とても 難しかった	合計
ローマ字が先	3% (145.2字/分)	4% (117.3字/分)	26% (91.2字/分)	47% (76.3字/分)	20% (66.1字/分)	100% (81.8字/分)
アルファベットが先	1% (104.0字/分)	8% (102.3字/分)	32% (70.2字/分)	43% (65.0字/分)	16% (61.3字/分)	100% (69.4字/分)

<ローマ字が先>



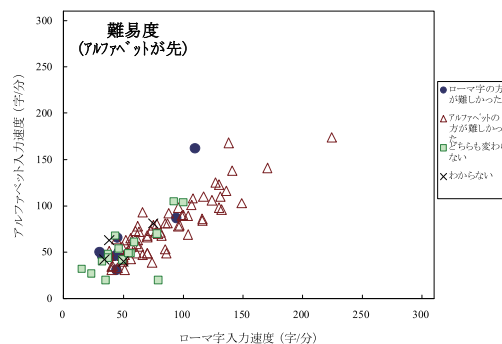
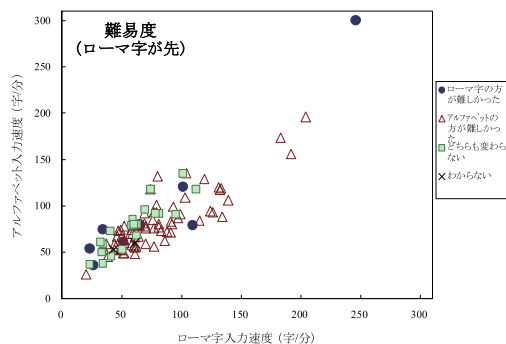
<アルファベットが先>



図表 2 アルファベットタイピングの難易度

ローマ字とアルファベットのどちらのタイピングが難しかったかを尋ねたところ、図表 3 に見られるように、いずれのグループにおいても、ローマ字入力速度とアルファベット入力速度に正の相関が見られるが、約 7 割程度の被験者がアルファベットの方が難しいと感じたことが分かった。ローマ字もアルファベットも入力方法は結局同じではあるが、母国語ではない英語の単語のタイピングということに抵抗を感じたのではないかと考えられる。

Q. 3	ローマ字の方が 難しかった		アルファベットの方が 難しかった		どちらも 変わらない		わからない		合計	
	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)
ローマ字が先	10% (78.0字/分)	(96.6字/分)	68% (79.8字/分)	(81.6字/分)	20% (59.9字/分)	(77.6字/分)	2% (52.0字/分)	(56.5字/分)	100% (75.1字/分)	(81.8字/分)
アルファベットが先	8% (55.5字/分)	(67.3字/分)	72% (82.6字/分)	(74.3字/分)	16% (52.2字/分)	(52.1字/分)	4% (49.3字/分)	(56.5字/分)	100% (74.2字/分)	(69.4字/分)



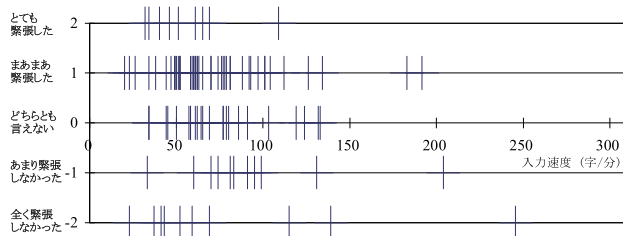
図表 3 難易度比較

3.2. 緊張感

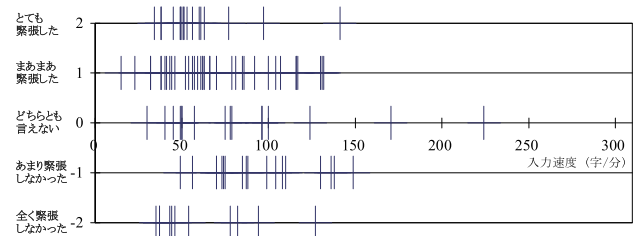
次に、ローマ字のタイピングの際に緊張したかどうかを尋ねた。その結果を図表 4 に示す。「緊張した」という被験者の割合が両グループとも 55%であるが、「とても緊張した」という被験者はアルファベットが先のグループの方が 8%多くなっており、これは、難しく感じたであろうアルファベットのタイピングの後、リラックスする間もなく、続けてローマ字のタイピングに取り組まねばならなかったためではないかと思われる。

Q.4 (ローマ字)	全く緊張しなかった	あまり緊張しなかった	どちらとも言えない	まあまあ緊張した	とても緊張した	合計
ローマ字が先	10% (82.4字/分)	11% (92.8字/分)	24% (75.1字/分)	46% (72.9字/分)	9% (56.3字/分)	100% (75.1字/分)
アルファベットが先	11% (61.5字/分)	18% (94.5字/分)	16% (85.2字/分)	38% (70.2字/分)	17% (59.6字/分)	100% (74.2字/分)

＜ローマ字が先＞



＜アルファベットが先＞

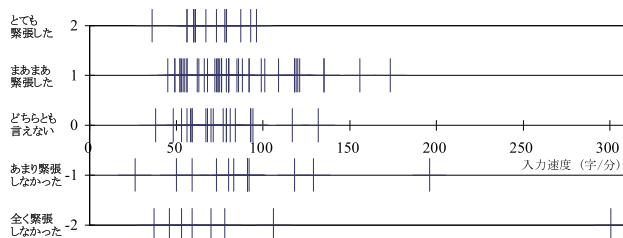


図表 4 ローマ字タイピングの緊張感

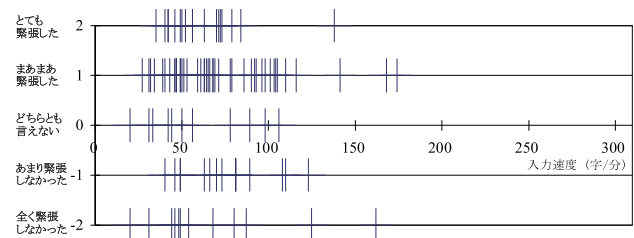
続けて、アルファベットのタイピングの際に緊張したかどうか回答してもらった結果を、図表 5 に示す。「とても緊張した」・「まあまあ緊張した」という割合は、ローマ字が先のグループは 15%・44%，アルファベットが先のグループは 18%・44%であり、両グループの差は「とても緊張した」という被験者数の差の 3%しか見られない。しかし、アルファベットが先のグループは、ローマ字よりも先に取り組んだパターンであるため、138 字/分の入力速度の被験者でも「とても緊張した」ようである。

Q.5 (アルファベット)	全く緊張しなかった	あまり緊張しなかった	どちらとも言えない	まあまあ緊張した	とても緊張した	合計
ローマ字が先	8% (93.7字/分)	12% (90.7字/分)	21% (75.0字/分)	44% (84.7字/分)	15% (69.5字/分)	100% (81.8字/分)
アルファベットが先	12% (67.8字/分)	15% (75.3字/分)	11% (58.8字/分)	44% (73.5字/分)	18% (62.1字/分)	100% (69.4字/分)

＜ローマ字が先＞



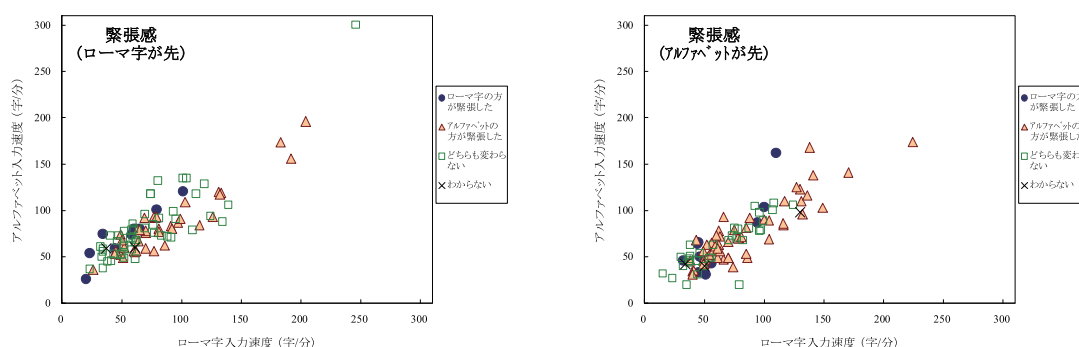
＜アルファベットが先＞



図表 5 アルファベットタイピングの緊張感

どちらのタイピングの際に、より緊張したか尋ねたところ、図表 6 に見られるように、いずれのグループもアルファベットの際に緊張した被験者が多く、特に、先にアルファベットに取り組んだグループは 54%と高く、入力速度が速い被験者も多く含まれている。なお、「どちらも変わらない」と答えた割合が 49%と、ローマ字が先のグループの方の約半数が、どちらの入力に対しても緊張感に差がなかったが、入力速度の遅い被験者がローマ字の方が緊張したようである。

Q. 6	ローマ字の方が緊張した		アルファベットの方が緊張した		どちらも変わらない		わからない		合計						
	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)					
ローマ字が先	11%	(55.5字/分)	(75.4字/分)	38%	(86.2字/分)	(84.4字/分)	49%	(71.9字/分)	(82.2字/分)	2%	(49.0字/分)	(59.5字/分)	100%	(75.1字/分)	(81.8字/分)
アルファベットが先	10%	(62.3字/分)	(68.6字/分)	54%	(82.8字/分)	(74.4字/分)	33%	(64.0字/分)	(62.4字/分)	3%	(71.3字/分)	(60.0字/分)	100%	(74.2字/分)	(69.4字/分)

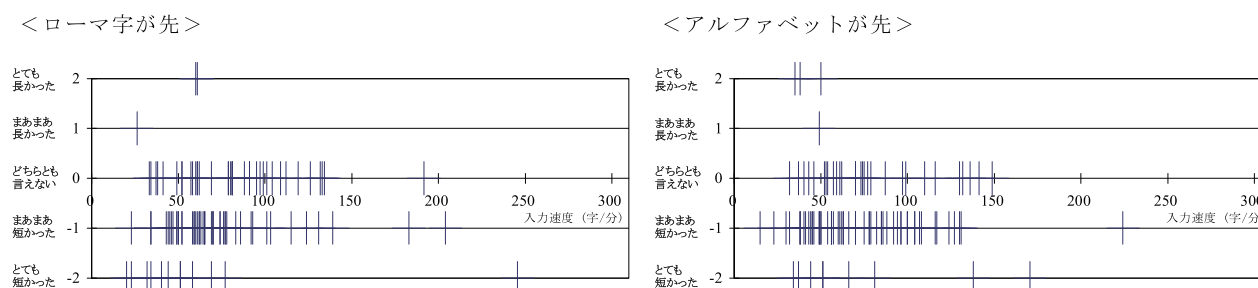


図表 6 緊張感比較

3.3. 時間感覚

さらに、ローマ字のタイピングテストの時間の長さについてどのように感じたか尋ねた。得られた結果を図表 7 に示す。いずれのグループも短いと感じた被験者が多く、それぞれ 60%, 67% を占めており、アルファベットを先に入力したグループの方が 7%多くなっている。一方、「長かった」と回答した被験者は 3%, 4%と非常に少なく、いずれも入力速度が約 60 字/分以下の被験者である。

Q. 7 (ローマ字)	とても 短かった		まあまあ 短かった		どちらとも 言えない		まあまあ 長かった		とても 長かった		合計	
ローマ字が先	12%	(62.1字/分)	48%	(74.0字/分)	37%	(82.9字/分)	1%	(26.0字/分)	2%	(60.5字/分)	100%	(75.1字/分)
アルファベットが先	9%	(74.7字/分)	58%	(73.5字/分)	29%	(79.7字/分)	1%	(49.0字/分)	3%	(41.0字/分)	100%	(74.2字/分)

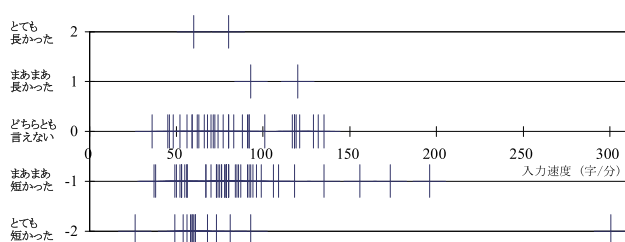


図表 7 ローマ字タイピングの時間感覚

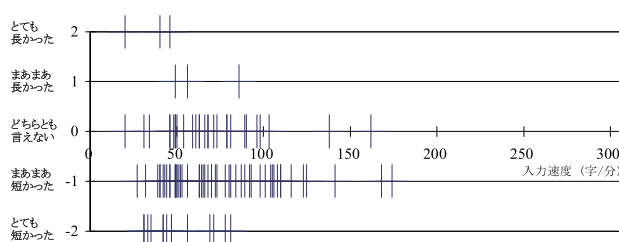
アルファベットのタイピングの時間の長さの感覚については、図表 8 に見られるように、両グループでよく似た回答結果が得られており、「とても短かった」と「まあまあ短かった」を合わせると 63%、65%であり、長いと感じた被験者は、ローマ字入力の場合よりも 1、2 名多い程度である。なお、ローマ字入力の場合とは異なり、入力速度が 120 字/分と比較的速い被験者も長いと感じたと回答している。

Q. 8 (アルファベット)	とても短かった	まあまあ短かった	どちらとも言えない	まあまあ長かった	とても長かった	合計
ローマ字が先	15% (77.2字/分)	48% (82.3字/分)	33% (82.4字/分)	2% (106.5字/分)	2% (70.0字/分)	100% (81.8字/分)
アルファベットが先	14% (50.5字/分)	51% (76.6字/分)	29% (70.1字/分)	3% (63.7字/分)	3% (35.3字/分)	100% (69.4字/分)

<ローマ字が先>



<アルファベットが先>

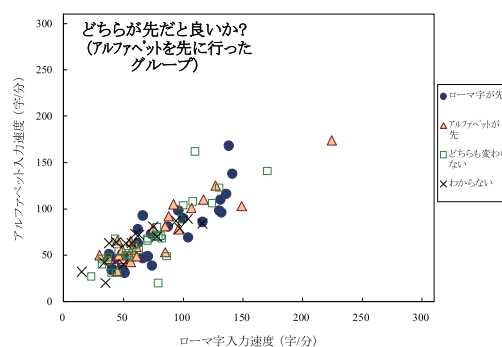
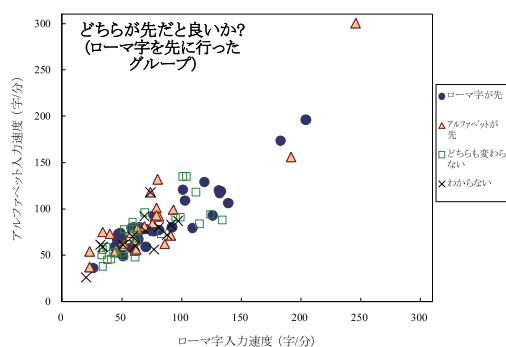


図表 8 アルファベット タイピングの時間感覚

3.4. タイピングの順序

最後に、ローマ字とアルファベットのどちらのタイピングを先に行った方がより良い成績を出せると思うか尋ねた。図表 9 に示したように、両グループともにローマ字が先の方が良いと思う被験者が若干多かった。今回、ローマ字入力速度はグループ間でほとんど差がなく、アルファベット入力速度は平均値が 81.8 字/分、69.4 字/分と差が見られたことから、先に母国語の単語入力に取り組み、入力に慣れ、その後、外国語の単語に取り組む方が良い結果を出せると思われる。

Q. 9	ローマ字が先の方が良い		アルファベットが先の方が良い		どちらも変わらない		わからない		合計						
	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)	(ローマ字)	(アルファベット)					
ローマ字が先	34%	(83.9字/分)	(86.3字/分)	26%	(74.7字/分)	(87.8字/分)	26%	(69.7字/分)	(75.5字/分)	14%	(64.4字/分)	(71.5字/分)	100%	(75.1字/分)	(81.8字/分)
アルファベットが先	28%	(80.9字/分)	(71.8字/分)	26%	(76.2字/分)	(71.5字/分)	30%	(72.0字/分)	(68.4字/分)	16%	(63.3字/分)	(63.9字/分)	100%	(74.2字/分)	(69.4字/分)



図表 9 タイピングの順序

4. まとめ

以上、タイピングテストに対する大学初年次生の自己評価について、入力速度との関連から検討を行った。結果として、ローマ字よりもアルファベットのタイピングの方が難しいと感じ、難しいと思ったものに対しては緊張感も高く、時間の経過が早く感じられ、結果的に十分な成果を出すことが難しくなることが明らかとなった。

今後は、タイピングテストの成績の数値データと自由記述との関連から、この評価を見直す予定である。

【参考文献】

- [1] タイピング技能検定イータイピング・マスター <<http://web.e-typing.ne.jp/>>
- [2] タッチタイピングが重要な理由 <<http://www.patbank.net/think/typing/index.html>>

(平成 25 年 3 月 31 日受理)